

な か て は ら

第60号

発行
仲手原自治会



疫病退散祈願所開設

篠原八幡神社と篠原地区町内会が毎年共催してきた夏まつりは、新型コロナウイルス感染防止を考慮して中止になってしまいました。



疫病退散祈願所(自治会館)

そこで仲手原奉賛会では、8月28日と29日、自治会館に祭壇を開き、八幡神社の神主さんにお祓いをしていただいて「疫病退散祈願所」を開設しました。たくさんの方々においでいただき、お参り戴いた方々には疫病鎮めのお札をさしあげました。また、疫病を払うといわれている妖怪アマビエの塗り絵を子ども会にお願いして提出していただき、その展覧会を自治会館

疫病退散



内で開催しました。塗り絵を提出して下さった子ども達には御神籤入りアマビエ人形を配布しました。

篠原八幡神社においては、篠原地区各自治会長が参集して神事だけが執り行われました。

コロナ禍のなかの自治会活動

齊藤自治会長に聞く

2年にも及ぶコロナ禍のなか、様々な制約を受けながらも工夫を凝らして自治会活動が進められてきました。そこでこの間のご苦労やこれからの抱負を齊藤会長に伺いました。

①

3密の回避など自治会館などに集まって行う活動が難しくなったと思いますが、どのよ

うな対応を図ってこられましたか。

月例の定例会にはZOOMを導入し自治会館に来られなくても参加できるようにしました。これまでは会場の制約から出席者を限らざるを得なかったのですが、ZOOMだと幅広い方にも参加してもらえるようになりました。セミナーなどもZOOMで参加が増えました。

また定期総会は書面での議決としましたが、多くの自治会員の方が評決に加わってくれました。この中でいろいろご意見が寄せられました。それぞれにお答えするとともに、防犯灯の設置など具体的な対応につなげることもできました。

コロナが収束してもこうした成果を次につなげていきたいですね。

②

皆さんが心待ちにしている夏祭りや、春・秋のふれあいまつりが2か年にわたり中止となりましたが、来年度はどうなるのでしょうか。

まだまだ予断を許しませんが、状況を見ながら実施できるように検討していきます。

このほか新たに、町内を巡る「防災オリエンテーリング」を開催し

たいと考えています。これは初期

消火器具の設置個所13か所をチェックポイントとして、1時間ほど巡り歩くミニツアーです。スタート時間をずらして3密を回避しながらも多くの皆さんに参加していただけるよう企画していきます。



自治会館にて
インタビュー：本紙編集委員
(伊東、芳賀、宮田)

③

このほかにも新しい活動を考えていますか。

区役所や区社会福祉協議会の話では、コロナ禍のなかで生活に困りの方が増えており「フードバンク」の食材が不足しているとのこと。この食材を集めていく「フードドライブ」に、自治会の皆さんに協力していただいております。楽しんでいきたいと考えています。賞味期限や食材の種類、また集め方など多くの検討課題はありますが、なるべく早いうちに実施していきたいと思えます。



**白幡小学校で記念事業
『バルーンリリース』**

本年創立85周年を迎えた白幡小学校で、7月19日に記念事業として、児童と教員及び関係者が85個の風船を空に飛ばす「バルーンリリース」を行いました。

児童の代表によるテレビ放送の後、晴天の校庭へ。皆の心が一つになる中、いよいよカウントダウン。



一斉にギュッと握っていた自分のメッセージ付きの風船を離すと、「ワーツ」という大歓声とともに色とりどりの風船が大空へ舞い上がりました。だんだんと小さくなっていく自分の風船を夢中で目で追いながら、自然と拍手が巻き起こってゆく光景は、とても感動的でした。

コロナ禍で制限があるなかでしたが、皆の創意工夫で心に残るステキな85周年の思い出になったことでしょう。

続・育メン奮闘記

平成29年7月第49号で
ご紹介した育見に励む
双子のお父さんの
その後のお話・・・



『双子パパの育見日記』

上條 洋

2015年4月、双子の男の子を授かり、仲手原の地で育ったその子供たちもう6歳。とても元気に成長している。

さて今年3月に、子供たちの成長を感じたとても思い出深い出来事があった。



土曜の仕事休みの朝、満開の桜を子供たちに見せたくなり、川崎市二ヶ領用水から続く、宿河原堤桜並木に連れて行った。

登戸駅に到着して駅から10分ほど歩き、まず向かったのは多摩川の河川敷。子供たちは、買ったばかりの子供用の双眼鏡を首からぶら下げ、バードウォッチングをしながら河川敷の桜並木を散策した。

さらに二ヶ領用水の桜並木を歩き続け、南武線沿いの宿河原駅近くを通り過ぎ、1時間半ほどかけて久地駅に到着。すでにパパはヘトヘト。「電車、乗ろうか？」と子供たちに伝えたら「このまま歩きたい！」と言うので桜並木とは

対照的な線路沿いの工業的な大通りを歩き続けた。

津田山に着き、もう一度「電車、乗ろうか？」と伝えても「げんきだぜ！」と言うので、次の溝の口を目指す。

口数も少なくなり、空も薄暗くなりつつある中、とほとほと歩き溝の口に到着。疲れているはずなのに二人揃ってまた「げんきだぜ！」と言う。よしとパパも気持ちを奮い、武蔵新城、武蔵中原、そして、ついに武蔵小杉に到着。登戸から武蔵小杉まで5時間かけて踏破した。

武蔵小杉駅の改札に着いた時、子供達がここまで歩けるとは思っておらず、なぜだか泣きそうになりながら「すごいよ!!」と言って子供達を何度も抱きしめた。

子供たちは、2022年4月に白幡小学校に入学する。

これからも2人の冒険を、パパも一緒に歩んでいきたい。今度は、登山に挑戦しよう。ママの許しをもらわなきゃ。

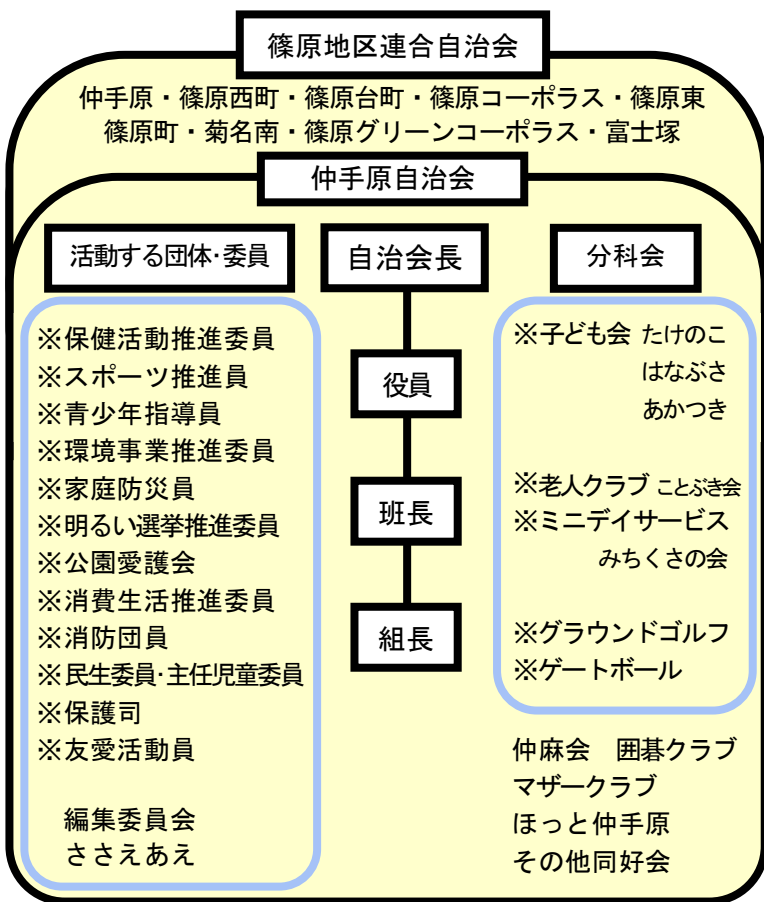


ご存じですか？

仲手原の自治会活動

自治会はどんな組織で成り立っているのか皆さんご存じでしょうか。左記の図の通り、自治会活動は様々な組織によって支えられ、住民同志のつながりが作られています。

今号から、これらの委員会・団体・分科会の活動を『自治会を支える組織』と題して、順番にご紹介



※は仲手原以外の篠原地区連合自治会でも活動しています

介していきます。それぞれの委員会・団体などが日頃どんな活動を行っているのかを知って、自治会活動を仲手原の皆様で盛り上げていきましょう。今後ともご協力をお願い致します。

第一回 公園愛護会

去る十月の某日、公園愛護会の活動取材すべく二丁目公園へ。朝8時過ぎに到着すると、すでに



【活動概要】3月〜12月
第一、第三日曜日の午前8時から9時まで ※雨天時は翌週に繰り越し（集合場所）二丁目公園



リポート 加藤篤志

20名ほどのメンバーが広場公園側と二手に分かれて手際よく清掃中だった。慌てて用意されている箒とゴミ袋をもって合流。大量の落ち葉を袋に詰めながら、日頃利用している公園の美観も、こうした陰の方々の支えで守られていることを改めて痛感した。
井上会長に話を聞くと「誰もが安心して公園を利用できるように清掃に励んでいます。一般の方の飛び入り参加も大歓迎です。手伝ってくれたお子様にはお菓子を差し上げますよ」とうれしい情報も。朝から公園の清掃をすると心も爽やか。是非一度、親子で参加してみてはいかがでしょうか。

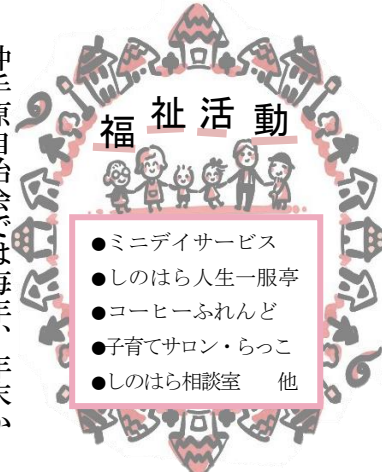
賛助会員は地域福祉の

サポーター

いつも協力ありがとうございます

港北区社会福祉協議会 (社協)

は誰もが安心して暮らせる地域社会をみんなで作ります。地域の福祉活動を進めています。これに賛同する方に賛助会員になっていただき、サポーターとして財源を支援いただいています。窓口は各自治会で行っており、寄せられた賛助会費は左の図のような高齢者支援・子育て支援・障がい者支援・個別支援・地域交流などに活用されています。



仲手原自治会では毎年、年末から年始にかけて民生児童委員が賛助会員の皆様のお宅へお伺いして会員の継続の確認をし、会費の徴収を行っております。今後ともご協力をお願いいたします。

健康作りシリーズ 2021

毎年秋に、体幹エクササイズ・リズム体操・椅子ヨガ・ポールエクササイズなどのリフレッシュ運動を約90分づつ4回のシリーズで開催しています。今年は10月13日・23日、11月3日・13日に開催されました。



10月13日 自治会館

中村幸貴インストラクターの指導のもと、ふだんの生活ではあまり使わない筋肉や関節のストレッチから始めて、だんだんとリズムカールな運動へ移行し、うっすらと汗をかく程度のエクササイズになります。高齢にもかかわらず驚くほど身体が柔らかい方や、若いのに少し硬い方もいましたが、みなさん程よい運動を楽しんでいました。

敬老のお祝い

今年も9月の敬老月間に70・75・80・85・90歳以上の方184人にお菓子を、また77・88・99歳の方56人にはお祝金をお贈りしました。100歳の方も2人いらっしゃいました。このお祝いは、あらかじめ自治会に届けられた65歳以上の方々の名簿の方を対象としています。まだ登録されていない方は「敬老名簿登録申込」と氏名・住所・生年月日を記入した紙を自治会ポストにお入れください。

自治会だより

- 12月 「なてはら」第60号発行
仲手原防災訓練(安否確認)(4日)
自治会館年末大掃除(18日)
「日の出を見る会」(中止)
- 1月 港北駅伝大会(中止)
- 2月 自治会親睦バス旅行(未定)
- 3月 新旧役員交代懇親会(未定)
新班長・組長業務説明書配布

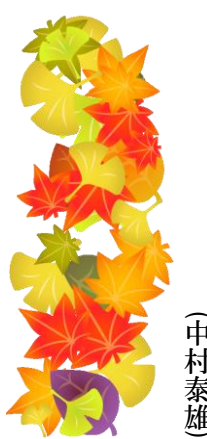
子供会だより

- 2月 節分豆まき大会(中止)
親子スキー教室(中止)
- 3月 卒業・進級祝い



今年もコロナ禍の為、自治会行事の大半が中止となり「なてはら」も年2回の発行になりました。自治会活動が少なくなると「こういう事が行われました」という記事の掲載は当然少なくなります。そこで皆様を読んで「いいなあ、明るい紙面だなあ、知っていてよかったなあ」と思ってもらえるように多く載せてみました。

今回は、斉藤会長にお尋ねした今後の自治会活動の方向について載せました。白幡小学校85周年記念バルーンリリースや「双子パパの育児日記」は、とても面白い話題で、コロナ自粛で沈みがちな日々々に光を頂いたような気がしました。



編集スタッフ

伊東美奈子・植木幹造・押尾泰典・加藤篤志・芳賀宏江・宮田純子
編集責任者…中村泰雄